



けんせつプラザ東京(撮影2015年)

おわりに

仲間の仕事と暮らしの状況はいつそう困難さを極めています。30年に及ぶ経済停滞の中、コロナ危機、エネルギー・食料等の物価高騰、そしてロシアのウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ戦闘と、世界に「戦争」が再び広がっている情勢です。安全保障と称し政府は大軍拡政策に乗り出し、その財源と負担はまぎれもなく国民に向けられます。コロナ禍で露呈したのは社会保障や医療制度、税制などの「国のもうけ優先」政策です。私たち国民の生活は、上がらない賃金、重くのしかかる税金と社会保障負担で仕事と生活はいつそう深刻な状況です。

そんな中でも東京土建は「建設アクション運動」を組織拡大運動の最大の意義として位置づけ、コロナ禍の困難な中でも、全支部が要求運動に立ち上がり、仲間の声を国や自治体に届け、多くの成果を生み出しました。まさにコロナ禍や戦争が社会の矛盾をあぶり出し、仲間の生活を守る労働組合として東京土建の役割が明確に示されています。

働くすべての者が、誇りと自信に満ち、よろこびを分かち合える、そして若者が未来を語り展望をもてる、そんな建設従事者の多数派結集へ団結を固める時です。東京土建の75年のたたかいの歴史に学び、どんな困難な状況でも仲間を信じ大衆運動を強化してすべての労働者と団結して80周年に向けて歴史を切り拓いていきましょう。

2024年1月15日

東京土建歴史編纂チーム

小番 徹

白滝 誠

吉川 豊

本田 将